

国際ロータリー第2620地区  
静岡第5グループ



POWER HAMAMATSU  
ROTARY CLUB  
JAPAN

# 週報 パワー浜松ロータリークラブ

もう一步前へ！

RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ/第 2620 地区ガバナー 稲葉雅之 /会長 加藤恵司 /幹事 鈴木 亮  
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800  
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp  
創立：2002 年 10 月 22 日 認証伝達式：2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ：浜松中 R C

よいことの  
ために  
手を取りあおう

Rotary

Rotary

## 第1030回例会9月9日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会：知久武 鷺津有一 ■点鐘：加藤恵司 ■週報：三枝潤也
- ロータリーソング：「我等の生業」
- ゲスト：浜松こども基金 代表 山田大記（ひろき）様  
米山記念奨学生 オウ・ウテイさん  
例会見学者 竹内太一様（紹介者：村木会員）

## 出席報告/スマイル報告

会員数 67 名（内出席免除会員 3 名）  
出席数 58 名 出席率 90.6%

- ・加藤恵司会長・鈴木亮幹事
- ・公共イメージ・ロータリー情報委員会
- ・小田木基行さん・高部光司さん、
- ・豊田充孝さん(以上、スマイル報告)

## 会長挨拶 会長 加藤恵司

おはようございます。

本日は、浜松出身でジュビロ磐田などで活躍され、子供の貧困支援の為に NPO 法人 RE:Frame (リ・フレイム) を立ち上げ、現在は浜松こども基金代表である、山田 大記(やまだひろき)様をお招きし、「地域全体で子供たちを支える」について卓話をして頂きます。

当クラブも、学習支援教室を地区補助金事業として支援しており、参考になる興味深いお話を頂けるものと楽しみにしております。山田様、よろしくお願い致します。

また、RLI の研修パート 1、パート 2 の申し込みが 9 月 26 日までの先着 36 名様限りとなっておりますので、お早い手続きをお願い致します。



先週の日曜日に受講した DEI（多様性、公平性）の Zoom 研修も面白かったのでお話ししたいところですが、本日は、新会員の入会式もあり時間割がタイトとなっておりますので、これで会長挨拶を終わらせていただきます。今日もよろしくお願い致します。

## 幹事報告 幹事 鈴木 亮

1. レターケースにて、ロータリーの友 9 月号、浜松こども基金の案内、秋の夕べの交流会の案内、静岡県地酒まつりの案内を配布しました。
2. 12/6~7 にかけて伊東市で地区大会が開催されます。出席希望者は、幹事までご連絡ください。こちらからもお声がけします。
3. RLI の開催案内が来ています。参加希望者は幹事までご連絡ください。こちらからもお声がけします。
4. 本日、新会員 3 名の入会式を行います。
5. 9/6 に地区補助金事業が行われましたが、出席扱いについて、再度青山委員長にご説明頂きたく思います。
6. 例会見学に来られました竹内太一様を村木会員よりご紹介願います。
7. 2 週連続祝日週で休会となりますので、次回例会は 9/30 です。

## 委員会報告

- 会員維持増強委員会 / 秋の夕べ交流会について（大石莉帆さん）
- 地区 R L I 委員会 / R L I のご案内（堀内善弘さん）

パワー浜松ロータリークラブに、新しい3人の仲間が加わりました。

( ) 内は職業分類



鈴木小織さん (建設業)



高井栄利さん (商社)



森 一夫さん (新聞発行業)

## 議事

### ■卓話「地域の子どもたちを支える新たな仕組み」

元プロサッカー選手の山田大記氏  
(NPO 法人 ReFrame 代表)

担当／公共イメージ・ロータリー情報委員会



元プロサッカー選手の山田大記氏 (NPO 法人 ReFrame 代表) が登壇した卓話「地域の子どもたちを支える新たな仕組み」では、貧困や孤立など、地域の子どもたちを取り巻く課題と、それを支える新しい仕組みづくりについて語られた。

山田氏は現役時代、児童養護施設で出会った一人の少年の「僕はここにいるからプロサッカー選手になる夢は諦めた」という言葉に衝撃を受けたという。この経験をきっかけに、恵まれた環境で育った自身だからこそできる支援を模索し、子どもの貧困解決に取り組む NPO 法人 ReFrame を設立。子ども食堂の運営や衣食住の支援、体験機会の提供など、多角的な活動を展開している。



日本では子どもの相対的貧困率が長年改善されず、浜松市でも家庭の孤立化や親の心の余裕の欠如が深刻化している。こうした背景の中で、子どもたちが「安心して過ごせる居場所」「学びや体験の機会」「衣食住の支援」「信頼できる大人との関わり」を得られるよう、多面的かつ継続的な支援の必要性が強調された。



しかし、支援団体の現場では資金不足や人材不足、発信力の欠如などが大きな課題となっている。こうした状況を改善するため、山田氏が中心となって立ち上げたのが「浜松こども基金」だ。同基金は、寄付付き商品の導入や発起人制度を通じて継続的な資金を確保し、地域の支援団体へ助成を行う。また、ボランティアの紹介や団体間のネットワーク構築を進め、地域全体で子どもを支える循環を生み出すことを目指す。



山田氏は講演の最後に、「困ったときはお互い様」という精神を、この街に残したい」と語り、共助の輪を広げる意欲を示した。2025 年には発起人 1,000 人の募集を行い、2026 年に正式に「浜松こども基金」を設立予定。地域社会全体で子どもたちの未来を守る、新たな取り組みとして注目を集めている。

